

2006 年(平成 18 年)感染症発生動向調査結果

一患者情報一

2006年（平成18年）感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月							
週	月	火	水	木	金	土	日
52							1
1	2	3	4	5	6	7	8
2	9	10	11	12	13	14	15
3	16	17	18	19	20	21	22
4	23	24	25	26	27	28	29
5	30	31					

7月							
週	月	火	水	木	金	土	日
26						1	2
27	3	4	5	6	7	8	9
28	10	11	12	13	14	15	16
29	17	18	19	20	21	22	23
30	24	25	26	27	28	29	30
31	31						

2月							
週	月	火	水	木	金	土	日
5			1	2	3	4	5
6	6	7	8	9	10	11	12
7	13	14	15	16	17	18	19
8	20	21	22	23	24	25	26
9	27	28					

8月							
週	月	火	水	木	金	土	日
31		1	2	3	4	5	6
32	7	8	9	10	11	12	13
33	14	15	16	17	18	19	20
34	21	22	23	24	25	26	27
35	28	29	30	31			

3月							
週	月	火	水	木	金	土	日
9			1	2	3	4	5
10	6	7	8	9	10	11	12
11	13	14	15	16	17	18	19
12	20	21	22	23	24	25	26
13	27	28	29	30	31		

9月							
週	月	火	水	木	金	土	日
35					1	2	3
36	4	5	6	7	8	9	10
37	11	12	13	14	15	16	17
38	18	19	20	21	22	23	24
39	25	26	27	28	29	30	

4月							
週	月	火	水	木	金	土	日
13						1	2
14	3	4	5	6	7	8	9
15	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	23
17	24	25	26	27	28	29	30


10月							
週	月	火	水	木	金	土	日
39							1
40	2	3	4	5	6	7	8
41	9	10	11	12	13	14	15
42	16	17	18	19	20	21	22
43	23	24	25	26	27	28	29
44	30	31					

5月							
週	月	火	水	木	金	土	日
18	1	2	3	4	5	6	7
19	8	9	10	11	12	13	14
20	15	16	17	18	19	20	21
21	22	23	24	25	26	27	28
22	29	30	31				

11月							
週	月	火	水	木	金	土	日
44			1	2	3	4	5
45	6	7	8	9	10	11	12
46	13	14	15	16	17	18	19
47	20	21	22	23	24	25	26
48	27	28	29	30			

6月							
週	月	火	水	木	金	土	日
22				1	2	3	4
23	5	6	7	8	9	10	11
24	12	13	14	15	16	17	18
25	19	20	21	22	23	24	25
26	26	27	28	29	30		

12月							
週	月	火	水	木	金	土	日
48					1	2	3
49	4	5	6	7	8	9	10
50	11	12	13	14	15	16	17
51	18	19	20	21	22	23	24
52	25	26	27	28	29	30	31

 「愛媛県感染症情報」発行日

2006年(平成18年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

1 全数把握対象 ー 五類感染症

(1) 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

(2) 二類感染症

細菌性赤痢

細菌性赤痢は、6人の届出があった。性別は男性3人、女性3人で、年齢別では20歳代1人、30歳代2人、60歳代2人、70歳代1人であった。患者から分離された菌型はフレキシネル菌5人、ソネ菌1人で、推定感染地域は全て海外(マダガスカル1人、エジプト2人、トルコ/エジプト1人、インドネシア1人)であった。

届出日	診断週	性別	年齢別	菌型	症状	推定感染地域
3月12日	10	女	60歳代	フレキシネル	有	マダガスカル
3月14日	11	女	60歳代	フレキシネル	有	マダガスカル
6月9日	23	男	70歳代	フレキシネル	有	トルコ、エジプト
8月11日	32	男	30歳代	ソネ	有	エジプト
8月26日	34	女	30歳代	フレキシネル	有	エジプト
9月26日	39	男	20歳代	フレキシネル	有	インドネシア(スマトラ島、スラベシ島)

腸チフス

腸チフスは2人の届出があり、20歳代男性1人、70歳代女性1人、感染地域は国内であった。20歳代男性の接触者調査で発見された70歳代女性には既往歴があり、持続的な無症状病原体保有者と、それによる二次感染と推測された。

届出日	診断週	性別	年齢別	症状	推定感染地域	備考
7月28日	30	男	20歳代	有	国内	
7月31日	31	女	70歳代	無	国内	罹患歴あり

(3) 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症

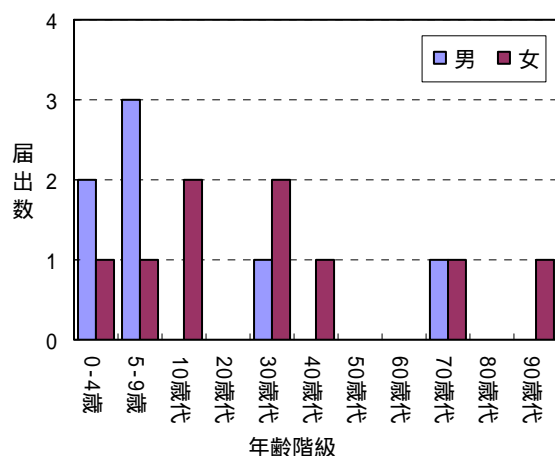
腸管出血性大腸菌感染症は11事例16人(患者12人、無症状病原体保有者4人)の届出があり、感染症法施行以降では最も届出数が少なかった。

性別は男性7人、女性9人、年齢別では10歳未満が7人、10歳代2人、30歳代3人、40歳代1人、60歳代以上3人であった。推定感染経路は経口感染(原因食材不明)が5人、動物(モルモット、犬)との接触感染が1人で、その他は不明であった。推定感染地域は全て国内で、同一家庭内の発生は3事例であった。血清型(Vero毒素)はO157 10人(VT1・VT2)、O26 5人(VT1)、O25 1人(VT2)であった。

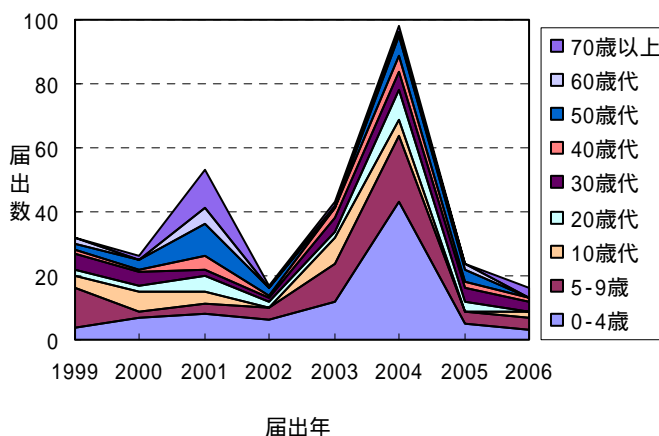
本疾患は通常食べ物を介して夏季に多発する傾向がある。本年も7~8月に8人(O157 7人、O26 1人)7事例の届出があったが、近年冬季にも患者が発生している。

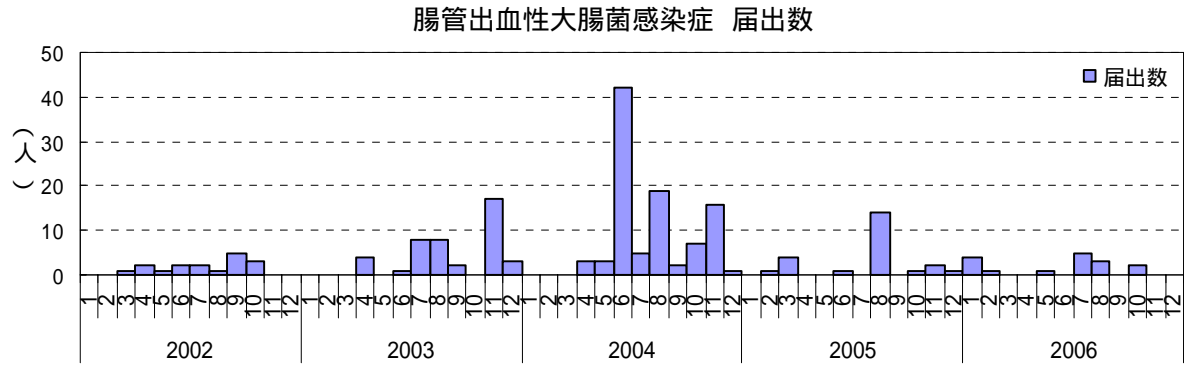
事例番号	届出月日	診断週	年齢別	性別	症状	発生地(患者住所地)	血清型	ベロ毒素
1	1月 14日	2	乳幼児	男	有	松野町	O26	VT1
	1月 17日	3	乳幼児	男	有			
	1月 17日	3	乳幼児	女	有			
	1月 17日	3	60歳代	男	無			
2	2月 4日	5	30歳代	女	無	今治市	O157	VT1・VT2
3	5月 31日	22	90差代	女	有	宇和島市	O25	VT2
4	7月 3日	27	70歳代	女	有	松山市	O26	VT1
5	7月 10日	28	乳幼児	男	有	今治市	O157	VT1・VT2
6	7月 20日	29	小学生	女	有	宇和島市	O157	VT1・VT2
	7月 23日	29	30歳代	女	有			
7	7月 27日	30	10歳代	女	有	松山市	O157	VT1・VT2
8	8月 2日	31	小学生	男	有	松山市	O157	VT1・VT2
9	8月 4日	31	30歳代	男	無	松山市	O157	VT1・VT2
10	8月 28日	35	小学生	男	有	今治市	O157	VT1・VT2
11	10月 2日	40	10歳代	女	有	松山市	O157	VT1・VT2
	10月 6日	40	40歳代	女	無			

年齢階級・性別患者数(2006年)



年齢階級別患者数(年推移)





(4) 四類感染症

A 型肝炎

A 型肝炎は 4 人の届出があった。性別は 4 人とも男性、年齢は 50 歳代 3 人、70 歳代 1 人であった。感染地域は、国内 3 人、国外（フィリピン）1 人で、推定感染経路は経口感染 3 人、不明 1 人であった。

届出日	診断週	性別	年齢別	症状	感染地域	推定感染経路
2月 22日	8	男	50歳代	黄疸、食欲不振	国内	不明
3月 14日	11	男	50歳代	黄疸、発熱(40)	フィリピン	経口感染
5月 11日	19	男	70歳代	発熱、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	経口感染
7月 12日	28	男	50歳代	発熱、肝腫大、肝機能異常	国内	経口感染

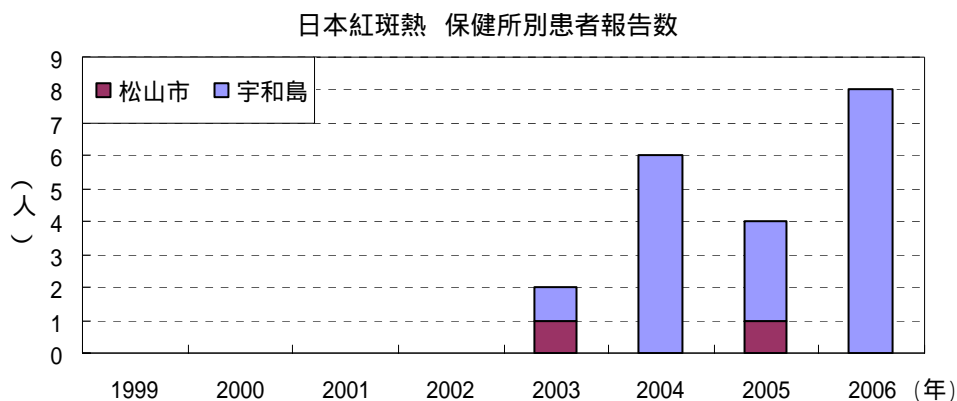
つつが虫病

つつが虫病は 2 人の届出があった。性別はいずれも男性で、感染地域は国内、年齢は 60 歳代と 70 歳代で、今治保健所管内から 1 人、松山市保健所から 1 人であった。県内では 2000 年 12 月に松山市で届出されて以降、2006 年まで届出はなかった。

届出日	診断週	性別	年齢別	症状	管内保健所	推定感染地域	推定感染経路
1月 31日	4	男	60歳代	発熱、発疹、 中枢神経症状(脳炎)	今治	国内	媒介動物からの感染
12月 12日	50	男	70歳代	発熱、刺し口、発疹、 意識消失発作	松山市	国内	媒介動物からの感染

日本紅斑熱

日本紅斑熱は6～11月に8人の届出があった。性別は男性2人、女性6人で、年齢は50歳代3人、60歳代1人、70歳代3人、80歳代1人で、全て宇和島保健所管内からの届出であった。推定感染地域は全て国内で、ダニ（マダニ）による刺咬歴が確認された。本疾患は2003年8月に県内で初めて患者が中予で届出されて以降、2003年2人、2004年6人、2005年4人と毎年患者が発生しており、2006年は、全国で宮崎県（13件）について届出数が多かった。また、今までに届出があった患者（20人）のうち、90%が宇和島保健所管内からの報告であり、今後の動向に注意が必要である。



届出日	診断週	性別	年齢	症状	届出保健所	感染地域	推定感染経路
6月 5日	23	女	70歳代	発熱、刺し口、発疹	宇和島	国内(宇和島)	マダニ
6月 14日	24	女	70歳代	発熱、頭痛、発疹、DIC、肝機能異常	宇和島	国内	動物・蚊・昆虫等からの感染
7月 7日	27	女	80歳代	発熱、刺し口、発疹	宇和島	国内(宇和島)	マダニ
8月 30日	35	女	50歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	宇和島	国内(宇和島)	マダニ
8月 30日	35	女	70歳代	発熱、発疹、肝機能異常	宇和島	国内(宇和島)	マダニ
9月 11日	37	女	50歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	宇和島	国内(宇和島)	ダニ
9月 19日	38	男	60歳代	発熱、刺し口、発疹	宇和島	国内(宇和島)	マダニ
11月 8日	44	男	50歳代	発疹、発熱、肝機能異常	宇和島	国内(宇和島)	マダニ

レジオネラ症

レジオネラ症は2人の届出があった。性別はいずれも男性で、年齢は50歳代と80歳代であった。推定感染地域は国内で、1人については温泉施設での感染が推定されていた。

届出日	診断週	病型	性別	年齢別	症状	推定感染地域	推定感染経路
6月 12日	24	肺炎型	男	80歳代	発熱、咳嗽、呼吸困難、意識障害、肺炎、多臓器不全	国内	不明
9月 21日	38	肺炎型	男	50歳代	発熱、咳嗽、肺炎	国内	温泉施設利用

(5) 五類感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は5人の届出があり、40歳代女性1人、50歳代男性3人、60歳代男性1人で、推定感染地域は国内3人、国外2人であった。

国内感染の推定感染経路は異性間性的接触1人、不明2人であった。国外感染の推定感染地域は、タイ/中国1人、インドネシア1人で、推定感染経路は異性間性的接触1人、媒介動物(ゾウ)からの感染1人、経口感染1人(再掲あり)であった。

届出日	診断週	性別	年齢別	症状	推定感染地域	推定感染経路
2月 17日	7	男	50歳代	下痢、粘血便	タイ、中国	異性間性的接触、接触感染(ゾウ)
7月 31日	31	男	50歳代	下痢、粘血便、腹痛	国内	異性間性的接触
8月 29日	34	男	60歳代	発熱、肝膿瘍	インドネシア	経口接触(水)
9月 4日	35	女	40歳代	下痢、粘血便、腹痛	国内	不明
12月 13日	50	男	50歳代	下痢、粘血便、腹痛	国内	不明

ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く)

ウイルス性肝炎は4人の届出があり、性別は男性3人、女性1人で、年齢は30歳代2人、50歳代1人、60歳代1人で、病型はB型3人、C型1人であった。

B型肝炎の推定感染地域は国内2人、不明1人で、推定感染経路は性的接触(異性間、同性間不明)1人、不明2人であった。

C型肝炎の推定感染地域は国内で、感染経路は針治療による感染が疑われたが詳細は不明であった。

届出日	診断週	病型	性別	年齢別	症状	感染地域	推定感染経路
3月 20日	11	B型	男	30歳代	全身倦怠感、食欲不振、黄疸	国内	不明
7月 13日	22	B型	男	60歳代	褐色尿、肝機能異常	国内	不明
7月 20日	29	C型	女	50歳代	全身倦怠感、褐色尿、肝機能異常	国内	不明 (針治療による感染の可能性あり)
10月 3日	38	B型	男	30歳代	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	性的接触 (同性間、異性間不明)

急性脳炎

急性脳炎は1人の届出があった。10歳代女性で、病原体は不明であった。その後の病原体検査では、咽頭ぬぐい液からアデノウイルス3型が、糞便からアデノウイルス3型とノロウイルスが検出された。感染地域、感染経路など詳細は不明であった。

届出日	診断週	病原体	性別	年齢別	推定感染地域	推定感染経路
2月 16日	6	不明	女	10歳代	国内	不明

(備考) 咽頭ぬぐい液:アデノウイルス3型検出
糞便:アデノウイルス3型およびノロウイルス検出

クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は 1 人の届出があった。10 歳代男性で、推定感染経路は国内、推定感染経路は不明であった。1999 年 4 月の調査開始以降、初めての届出であり、病原体の遺伝子型は *Cryptosporidium meleagridis* であった。本事例は集団下痢症事例の原因究明の過程で分離された。

届出日	診断週	症状	性別	年齢別	感染地域	推定感染経路
9月 4日	34	腹痛、下痢	男	10歳代	国内	不明

クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は 3 人の届出があった。性別はいずれも男性で、年齢別では 50 歳代 1 人、60 歳代 2 人であった。全て孤発性で、ほぼ確実例が 2 人、疑い例が 1 人であった。

届出日	診断週	病型（診断の確実度）	性別	年齢別	推定感染地域	推定感染経路
3月 29日	13	孤発性（疑い）	男	60歳代	国内	不明
8月 16日	32	孤発性（ほぼ確実）	男	60歳代	国内	不明
10月 10日	41	孤発性（ほぼ確実）	男	50歳代	国内	不明

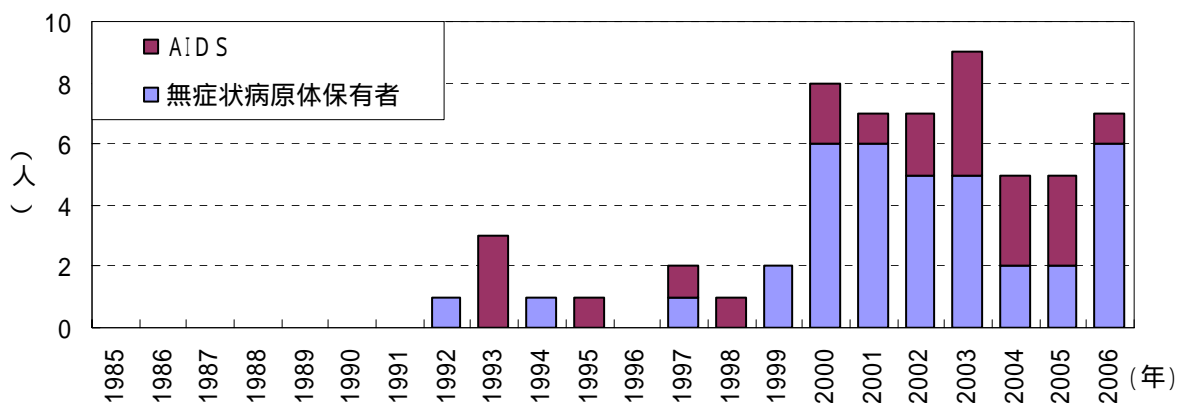
後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は 7 人の届出があり、そのうち無症状病原体保有者 6 人、AIDS 1 人であった。性別は男性 6 人（無症状病原体保有者 5 人、AIDS 1 人）、女性 1 人（無症状病原体保有者）であり、年齢別では 20 歳代 1 人（無症状病原体保有者）、30 歳代 4 人（無症状病原体保有者 3 人、AIDS 1 人）、40 歳代 2 人（無症状病原体保有者）であった。推定感染地域は国内 6 人、国外 1 人で、推定感染経路は性的接触 6 人（異性間 2 人、同性間 4 人）、国外での輸血による感染が 1 人であった。

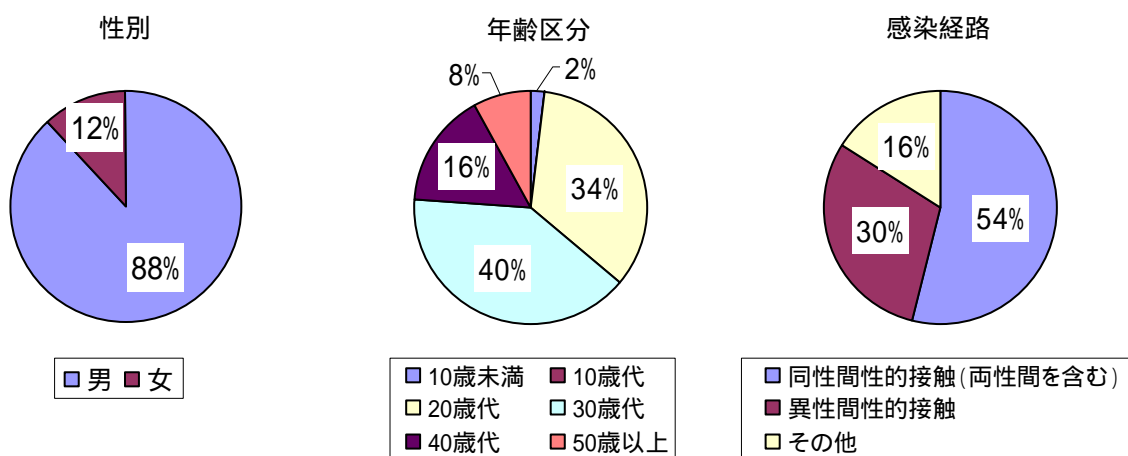
県内の無症状病原体保有者及び AIDS 患者数の年次推移をみると、1992 年に初めて届出されてから 1999 年までは毎年 1~2 人程度で推移していたが、2000 年以降は年間届出数の多い状態が続いている。1999 年 4 月 1 日以降、感染症法に基づいて届出された 50 人のうち、性別では男性が全体の 88% を占め、年齢区分別では 20~30 歳代で 74% 占め、感染経路別では同性間性的接触（両性間を含む）が 54% を占めた。全国的な傾向と同様、県内においても 20~30 歳代の男性の同性間性的接触が主要な感染経路となっている。

届出日	診断週	病型	性別	年齢別	感染地域	感染経路
4月 11日	14	無症状病原体保有者	男	40歳代	国内	異性間性的接触
4月 27日	17	無症状病原体保有者	男	30歳代	国内	同性間性的接触
6月 8日	22	AIDS	男	30歳代	国内	同性間性的接触
6月 23日	24	無症状病原体保有者	女	30歳代	国外	輸血
6月 30日	25	無症状病原体保有者	男	30歳代	国内	同性間性的接触
7月 14日	25	無症状病原体保有者	男	40歳代	国内	異性間性的接触
12月 6日	48	無症状病原体保有者	男	20歳代	国内	同性間性的接触

愛媛県におけるHIV感染者およびAIDS患者の年次推移



1999年4月以降 感染症法に基づいて届出された患者(50人)の内訳



梅毒

梅毒は4人の届出があり、早期顕症梅毒(期)2人、晚期顕症梅毒1人、無症候梅毒1人であった。性別は男性2人、女性2人で、年齢別は20歳代1人、50歳代3人であった。いずれも推定感染地域は国内で、性的接触3人(異性間1人、異性間・同性間不明2人)、接触感染(梅毒感染者の介護)1人であった。

届出日	診断週	病型	性別	年齢別	推定感染地域	推定感染経路
3月 29日	12	早期顕症 期	女	50歳代	国内	接触感染(梅毒患者介護)
5月 15日	20	早期顕症 期	女	20歳代	国内	性的接触(異性間、同性間)
5月 22日	20	無症候	男	50歳代	国内	異性間性的接触(異性間)
11月 13日	41	晚期顕症	男	50歳代	国内	性的接触(異性間、同性間不明)

破傷風

破傷風は2人の届出があった。性別はいずれも男性で、年齢別は50歳代1人、60歳代1人であった。推定感染地域は国内、推定感染経路は外傷による創部からの感染であった。

届出日	診断週	性別	年齢	推定感染地域	推定感染経路
9月 2日	35	男	60歳代	国内	畑で竹のくいに右手をぶつけた
12月 13日	49	男	50歳代	国内	創傷感染(手指)

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症 種類	年 疾病名	愛媛県						全国						
		2006	2005	2004	2003	2002	2001	2006	2005	2004	2003	2002	2001	
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)*					-	-				-	-		
	痘そう					-	-				-	-		
	ペスト													
	マールブルグ病													
	ラッサ熱													
二類	急性灰白髄炎													
	コレラ		1					47	56	86	25	51	50	
	細菌性赤痢	6		3	3	6	7	483	553	594	473	699	844	
	ジフテリア													
	腸チフス	2					2	72	50	67	62	63	65	
	パラチフス							24	20	88	44	35	22	
三類	腸管出血性大腸菌感染症	16	24	98	43	17	53	3,910	3,589	3,715	2,999	3,183	4,435	
四類	E型肝炎			2	1			70	42	37	30	16		
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)						-		1				-	
	A型肝炎	4		2	18	7	2	316	170	139	303	502	491	
	エキノコックス症							20	20	26	20	10	15	
	黄熱													
	オウム病		1	1				22	34	40	44	54	35	
	回帰熱													
	Q熱							2	8	7	9	47	42	
	狂犬病							2						
	高病原性鳥インフルエンザ*					-	-					-	-	
	コクシジオイデス症							2	5	5	1	3	2	
	サル痘*					-	-					-	-	
	腎症候性出血熱													
	炭疽													
	つつが虫病	2							397	345	313	402	338	491
	デング熱								57	74	49	32	52	50
	ニパウイルス感染症*					-	-						-	-
	日本紅斑熱	8	4	6	2				45	62	66	52	36	40
	日本脳炎						1		7	7	5	1	8	5
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	ブルセラ症								5	2			1	
	発疹チフス													
ボツリヌス症								2	3					
マラリア		2	1	2	3			61	67	75	78	83	109	
野兔病*						-	-					-	-	
ライム病								13	8	5	5	15	15	
リッサウイルス感染症*						-	-					-	-	
レジオネラ症	2			1	1			508	281	161	146	167	86	
レプトスピラ症*			1		-	-		24	17	18	1	-	-	
五類	アメーバ赤痢	5	4	3	3		3	738	698	610	520	465	429	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4	3	8	6	2	3	275	277	293	333	430	438	
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)*	1		2		-	-	160	188	166	12	-	-	
	クリプトスポリジウム症	1						14	12	92	8	109	11	
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3	3	2	2		3	177	152	175	118	147	133	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症					3		107	60	52	53	92	47	
	後天性免疫不全症候群	7	5	5	9	7	7	1,311	1,203	1,162	970	916	947	
	ジアルジア症				1	1	1	87	86	94	103	113	137	
	髄膜炎菌性髄膜炎							14	10	21	18	9	8	
	先天性風しん症候群								2	10	1	1	1	
	梅毒	4	3	9	4	7	6	625	543	533	509	575	585	
	破傷風	2	4	2	2	4	5	115	115	101	73	106	80	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症*					-	-					-	-	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症							79	69	58	59	44	40	
	計	67	54	145	97	58	93	9,791	8,829	8,863	7,504	8,370	9,653	

注1: (*)の疾患については2003年11月5日からの数値である。

注2: 全国の2006年の報告数については概数である。

注3: 全国のE型肝炎及びA型肝炎の報告数については、2003年11月5日以前は(急性)ウイルス性肝炎として報告された数値である。

表 2-1-2 2006年全数把握対象疾患発生状況(月別)

平成18年1月1日～平成18年12月31日

感染症類型	疾病名	月												
		計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)													
	痘そう													
	ペスト													
	マールブルグ病													
	ラッサ熱													
二類	急性灰白髄炎													
	コレラ													
	細菌性赤痢	6			2			1		2	1			
	ジフテリア													
	腸チフス	2							2					
	パラチフス													
三類	腸管出血性大腸菌感染症	16	4	1			1		5	3		2		
四類	E型肝炎													
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)													
	A型肝炎	4		1	1		1		1					
	エキノコックス症													
	黄熱													
	オウム病													
	回帰熱													
	Q熱													
	狂犬病													
	高病原性鳥インフルエンザ													
	コクシジオイデス症													
	サル痘													
	腎症候性出血熱													
	炭疽													
	つつが虫病	2	1											1
	デング熱													
	ニバウイルス感染症													
	日本紅斑熱	8						2	1	2	2	1		
	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	ブルセラ症													
	発疹チフス													
	ポツリヌス症													
	マラリア													
	野兔病													
	ライム病													
	リッサウイルス感染症													
レジオネラ症	2						1			1				
レプトスピラ症														
五類	アmeerバ赤痢	5		1						1	1	1		1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4			1					2		1		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)	1		1										
	クリプトスポリジウム症	1									1			
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3			1						1		1	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症													
	後天性免疫不全症候群	7			1	1		4						1
	ジアルジア症													
	髄膜炎菌性髄膜炎													
	先天性風疹症候群													
	梅毒	4			1	2							1	
	破傷風	2									1			1
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症													
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症													
	計	67	5	4	7	3	2	8	12	11	6	5	2	2

表2-1-3 2006年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

平成18年1月1日～平成18年12月31日

感染症類型	疾病名	保健所名							
		計	四国中央	西条	今治	松山市	松山	八幡浜	宇和島
一類	エボラ出血熱								
	クリミア・コンゴ出血熱								
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)								
	痘そう								
	ペスト								
	マールブルグ病								
二類	ラッサ熱								
	急性灰白髄炎								
	コレラ								
	細菌性赤痢	6				6			
	ジフテリア								
三類	腸チフス	2							2
	パラチフス								
四類	腸管出血性大腸菌感染症	16			3	6			7
	E型肝炎								
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)								
	A型肝炎	4				1	3		
	エキノコックス症								
	黄熱								
	オウム病								
	回帰熱								
	Q熱								
	狂犬病								
	高病原性鳥インフルエンザ								
	コクシジオイデス症								
	サル痘								
	腎症候性出血熱								
	炭疽								
	つつが虫病	2			1	1			
	デング熱								
	ニバウイルス感染症								
	日本紅斑熱	8							8
	日本脳炎								
ハンタウイルス肺症候群									
Bウイルス病									
ブルセラ症									
発疹チフス									
ポツリヌス症									
マラリア									
野兔病									
ライム病									
リッサウイルス感染症									
レジオネラ症	2		1					1	
レプトスピラ症									
五類	アメーバ赤痢	5	1			3		1	
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4		2	1		1		
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)	1		1					
	クリプトスポリジウム症	1			1				
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3				3			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症								
	後天性免疫不全症候群	7	1			2	4		
	ジアルジア症								
	髄膜炎菌性髄膜炎								
	先天性風疹症候群								
	梅毒	4		1	1	1			1
	破傷風	2				2			
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症								
バンコマイシン耐性腸球菌感染症									
計	67	2	5	7	25	8	2	18	

表 2-1-4 2006年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)

平成18年1月1日～平成18年12月31日

感染症 類型	疾病名	年齢														70 歳 以上			
		計	0 歳	1 4	5 9	10 14	15 19	20 24	25 29	30 34	35 39	40 44	45 49	50 54	55 59		60 64	65 69	
一類	エボラ出血熱																		
	クリミア・コンゴ出血熱																		
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)																		
	痘そう																		
	ベスト																		
	マールブルグ病																		
二類	ラッサ熱																		
	急性灰白髄炎																		
	コレラ																		
	細菌性赤痢	6						1				2				2		1	
	ジフテリア																		
	腸チフス	2							1									1	
三類	パラチフス																		
	腸管出血性大腸菌感染症	16		3	4	2				1	2	1						3	
四類	E型肝炎																		
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)																		
	A型肝炎	4											2	1				1	
	エキノкокクス症																		
	黄熱																		
	オウム病																		
	回帰熱																		
	Q熱																		
	狂犬病																		
	高病原性鳥インフルエンザ																		
	コクシジオイデス症																		
	サル痘																		
	腎症候性出血熱																		
	炭疽																		
	つつが虫病	2																1	1
	デング熱																		
	ニパウイルス感染症																		
	日本紅斑熱	8												2	1	1		4	
	日本脳炎																		
	ハンタウイルス肺症候群																		
Bウイルス病																			
ブルセラ症																			
発疹チフス																			
ポツリヌス症																			
マラリア																			
野兔病																			
ライム病																			
リッサウイルス感染症																			
レジオネラ症	2													1				1	
レプトスピラ症																			
五類	アメーバ赤痢	5									1		2	1	1				
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4								2				1	1				
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、日本脳炎を除く)	1				1													
	クリプトスポリジウム症	1					1												
	クロイツフェルト・ヤコブ病	3													1	1	1		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症																		
	後天性免疫不全症候群	7								1	2	2	2						
	ジアルジア症																		
	髄膜炎菌性髄膜炎																		
	先天性風疹症候群																		
	梅毒	4								1				2	1				
	破傷風	2													1		1		
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症																		
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症																		
計	67		3	4	3	1	1	3	5	4	6		10	6	7	2	12		

